



# BS1スペシャル 「オシム 73歳の闘い」

＜放送＞5月6日（火・祝） 後10:00～10:50

2013年10月16日リトアニア・カウナスのサッカースタジアム。これまで人前で決して涙を見せたことのない大男が人目もはばからず、大粒の涙を流している。イビツァ・オシム（73歳）。この日、祖国ボスニア・ヘルツェゴビナが1992年の建国以来初めてワールドカップ出場を果たしたのである。



日本代表監督時の2007年脳梗塞に倒れ、故郷サラエボに帰ったオシムの祖国での活動は、日本ではほとんど報じられていなかった。オシムは、不自由な体にむち打ち、ボスニアサッカー協会の正常化委員会会長として民族対立と腐敗を繰り返すサッカー協会を立て直し、代表チームに戦術を与えてきた。国連も欧州議会も成し得なかったボスニアの団結を、オシムがサッカーを通して実現させたのである。「サッカーは私の人生のすべて。だから人生をあきらめるわけにはいかなかった」。

オシムの闘いの一部始終を目撃してきた日本人がいる。多くの賞に輝いた「オシムの言葉」の著者・ノンフィクション作家の木村元彦（きむらゆきひこ）さん。木村さんはたびたびサラエボを訪れ、政治家など関係者の頑なな心を動かすオシムの言葉に耳を傾けてきた。また、出場を決めたアウェイのリトアニア戦に向かう代表チームとサポーターを乗せたチャーター機への同乗を許され、歓喜にふるえる人々の表情を記録している。

ボスニアの人々にとっても、代表チームが戦うワールドカップは単なるスポーツイベントではない。戦火を逃れ、世界各国に散り散りになった人たちが心をひとつにして祖国への愛を共有する場となる。

これまで木村さんが記録してきた映像とこれからW杯に向けて動き出すオシムを取材、祖国とサッカーを愛する男の闘いを見つめる。またチーム最大のスーパースターで戦火のなかで成長したジェコ選手にも取材、ワールドカップへの思いを描く。

